

うど重なったことも幸いしました。

わたしより虫採りのうまいヒトは星の数ほどいます。もしそういうヒトたちが当時の南西諸島に住んでいたなら、きつともつともつとすばらしいカメムシ図鑑ができあがっていたに違いない、いまもそう思うことがあるのです。

## カメムシってどんな虫？

カメムシと聞くと、まるで挨拶みたいに誰もが顔をしかめます。

「あの臭い虫ね！」

さよならを言うみたいに、みんな決まってそう言うのです。

わたしは慌てて声を大きくします。

「ちょっと待ってください！」

どんな生物であれ、生き残って子孫を残すために、おのれを守る戦略をもっています。細菌は、短時間で体の性質をどんどん変えるなどして生き延びてきました。

植物は動けません。そこで、捕食者にその一部分を食われても生き延びられるような

体になるとともに、トゲをつくったり、アルカロイドなどの毒をつくったりして、食べられること自体もできるだけ防いできました。

例えば、ジャガイモの原種は毒を多く含んでいて食べられませんが、その毒を育種の過程で減らして、ようやく今日の食べられるジャガイモができあがったのです。

一方、動くことのできる動物は、逃げ足を早くしたり、あるいは、するどい牙をもつなどして敵を撃退してきました。

ヒトもまた、脳みそを使って、あれこれ悪知恵を働かせて生き延びてきたのです（ちなみに大半の生物は脳をもっておらず、したがって意識というものも、もってはいません）。カメムシは臭腺という器官を備えていて、そこから臭いを出し、外敵から身を守ります。ヒトの悪知恵に比べたらかわいいものです。

ただ、カメムシを狭いビンに入れて閉じ込めておくと、自分で出したにおいにやられて死んでしまうことがあります。ヒトが自分のおならのにおいで死んだということはありませんから、恐るべき威力ではありません。

ですから、「カメムシってどんな虫？」と聞かれたときは、堂々と「あの臭い虫！」のひとりで済ませてしまうことができます。

でも、臭い虫はカメムシだけではありません。

ツノトンボの一種（台湾）。ツノトンボはトンボではなくウスバカゲロウの仲間で、幼虫はアリジゴクによく似ています。見つけたらぜひにおいを嗅いでみてください！



わたしはツノトンボこそ臭い虫の代表だと思っています。トンボという名前はついていますが、トンボとはまったく別のグループに属していて、トンボにはない長い触覚もついています。

ツノトンボはなんとも形容しがたい、全体がねじくれてしまいそうなおいを出します。カメムシはときに食用ともなりませんが、ツノトンボが食用になったという話は聞いたことはありません。

さて、カメムシの出す臭いにおいは、敵を追い払うためだけのものではありません。それはある濃度では異性を引き寄せる「わたしはここにいますよ」という呼びかけになり、ある濃度では「みんな集まれ！」という集団形成のお誘いになります。そして

またある濃度では「みんな注意しろ！」という合図にもなります。

つまりカメムシはみずからのおいを、同種個体間でさまざまなメッセージを伝えあうフェロモン（同種個体間に作用する生化学的信号物質）としても使えば、外敵に逃避行動を起こさせるアロモン（異なる種に作用する生化学的信号物質）としても使います。生物のつくり出す物質にせよ形態にせよ、最初はひとつの機能しかもたなかったのに、やがてそれが拡張されて別の機能をもつようになることはしょっちゅうあります。生物は使い回しが得意で、たえず手もちのものをいじくり回しては、新しい使い道を考え出すのです。

保温のために獲得した恐竜の羽が、やがて空を飛ぶための道具へと変化していったのは有名な話です。いまそこらへんを飛んでいる鳥は、どれも小さな恐竜です。

さて、大方の日本人にとってはただの臭い虫ですが、カメムシを食べる文化は世界中にあります。

アジアに限っても、中国、タイ、インドネシア、ラオス、ミャンマーをはじめ、多くの国で食用にされています。なぜ日本ではカメムシ食が広く普及しなかったのか不思議なくらいです（タガメなどの水生カメムシは、一部の地域で食用となってきました）。

そもそもいまはやりのコリアンダーはごく一般的なカメムシのにおいですし、日本人

魚を捕る方法にはさまざまなものがあります。釣り針で釣ったり、網で囲んだり、鉗もちで突いたり。捕り方によって、あるいは捕るヒトによって、捕れる魚の種類も異なります。

昆虫採集の場合も、採集にはいろいろな方法があります。そして魚捕りの場合と同様に、採集方法や採るヒトが違えば、採れる虫も異なってきます。

ここでは、わたしの好きな採集方法と、採集にあたっての注意点についてお話ししますが、そもそも虫の採り方なんか星の数ほどあります。

釣りだって、細かい仕掛けの違いまで考えれば、それこそ釣り人の数だけ異なった釣り方があります。あれこれ試してみても、そのなかから自分に合った方法を見つけにくいかもしれません。

どのような方法であれ、大切なのは繰り返し返すことです。

そうしているうちにやがて、楽器や絵筆をあやつるときのように、たとえ同じ道具を使っているとしても、そこから生み出されるものは、ヒトそれぞれ独自のものとなっていきます。

## 目

当たり前だと言われるかもしれませんが、採集の基本は目です。

タイでのこと、炎天下での採集を続けていたら、そのうち頭がもうろうとしてきて、視界に入るものは叩き網（後述）の白布だけになってきました。

白布を敷に差し込んでバンと枝を叩き、またバンと枝を叩いて白布を見ます。さらにバンと枝を叩いて白布を見る。その繰り返しです。

そんな様子を不安そうに見ていた、わたしの虫採りの師匠ソブンさんが言いました。「タカハシ！ 目だ！ まずは目で探せ！」

わたしはそのとき、ダマスコへ向かう途中で盲目となったパウロが再び視界を取り戻したときのように、目を覆っていた垢が一瞬でばさつと音を立てて地面に落ちるのを聞きました。

そうだ！ 基本は目なのだ！ まずは目を使わなくてはいけないのだ！

顔を上げると、たちまちのうちに周囲の風景が見えてきました。

以来、わたしは叩き網の白布ばかり見ている自分に気がつくたびに、「目だ！ まずは

カメムシは世界で約4万種、日本にもおよそ1500種が生息しています。本章では、それらのうちからいくつものカメムシをピックアップし、紹介します。

## キンカメムシ

いま、カメムシファンの女性や芸術家が少しずつ増えています。「ほんとう？」と言われそうですが、ほんとうです。こうしたヒトたちがとくに興味をもっているのが、キンカメムシの仲間です（口絵8〜10ページ）。

キンカメムシは南方系のカメムシで、世界から450種以上、そして日本からは10種が知られています。そのあざやかな色彩と大きさで、カメムシのなかでもたいへん人気のあるグループです。

ためにネットで「カメムシ ブローチ」と入力すると、キンカメムシを模したブローチがいくつもヒットします。

こうしたビジュアル系カメムシの愛好家にとっては、カメムシが害虫であるかどうか、珍しい種類であるかどうかは重要ではありません。

重要なのは、そのカメムシがきれいか、かわいいか、あるいはまた愛嬌があるか、ということだけです。

こうした新手のカメムシファンもまた、カメムシ図鑑を毎日眺め明かしては、お目当てのカメムシとの遭遇を夢見ています。

コレクターの場合、最初は美しいものに惹かれ、やがては希少種へと向かっていくのが普通です。

しかし、ビジュアル系カメムシの愛好家がそういう方向へ動いて、地味な珍種を追うようになるとはあまり思えません。

これまでの昆虫コレクターとは、基本的なところで違う存在であるといってもいいでしょう。

生きているときはきれいなキンカメムシも、死ぬとすぐに色あせてしまいます。新手のカメムシファンたちが生きたカメムシを愛でるところも、これまでのコレクターとは大きく異なっています。昆虫コレクターの崇拜対象は、基本的に標本です。

このように、同じ対象を扱うにしても、昆虫とのつきあい方はさまざまです。生きた虫の姿形を愛でる者もいれば、ひたすら珍品の標本を集めるコレクターもいます。カメムシ防除を職業とする者もいれば、たくさん集めて食材として売る者もいます。

# パラオ

## パラオへ

45歳でわたしは仕事を辞めました。

それと同時に結婚し、妻と2人でパラオへ向かいました。結婚したなんて、そんなめんどくさい話は誰にもしませんでした。

新しい職場は、アメリカ人の住んでいたブラックの宿舎を改造したもので、そこでわたしはパラオ農業局害虫防除課の一員として過ごすことになりました。

スタッフは、パラオ人のフレッド、アルベルトさん、スピスさん、それにわたしの4人です。

課長のフレッドはハワイ大学を卒業した、パラオのエリートです。大きなおにぎりのような体型をした30代の彼は、いつもニコニコ笑いながら、パラオの農業をひとりで背負っていました。他のパラオ人とは異なり、フレッドはフィリピン人を差別することなど一度もありませんでした。農業局でただひとり、パラオの将来を真剣に考えていました。

パラオ共和国は日本の真南、北緯 2°~8°、東経 131°~135°に位置する。総面積は約 460 km<sup>2</sup>、平均気温は約 28°C、平均湿度は 82%。海洋性熱帯雨林気候に属し、年間降雨量はおよそ 3,800 mm。350 以上の島からなる。最も大きな島はバベルダオブ島（屋久島程度の大きさ）。



パラオ農業局害虫防除課の建物。すぐ裏手には珊瑚礁の海が広がっています。

## 4 カメムシを探しながら巡った土地で